



私が5ラウンドシステムというカリキュラムに出会ってから、10年がたちます。教科書を5巡して何度も表現に触れ、少しずつアウトプットを繰り返すという方法で、生徒たちは英語の力を身につけていきました。そんな姿を目の当たりにして、「インプットから入る」という言語習得の理論に基づいて考えられたラウンドシステムは、実は小学校でも効果的な指導法ではないかと考えました。ここでは、これまでの中学校の授業を振り返りつつ、ラウンドシステムを活用した小学校での授業を紹介します。

### トピックベースで進めるラウンドシステム

本校の授業を見に来た先生方が口をそろえて言うてくださるのは、「生徒がよく話す」ということです。その日に提示されたトピックについて即興で話すときの内容は、学年を追うごとに詳しくなっていきます。その「話す力」の支えとなっているのは、日々設けているアウトプットの機会と、教科書本文の大量のインプットだと感じています。ラウンドシステムでは教科書を5回繰り返して使用するのですが、本校が使用している『Here We Go!』は物語が親しみやすく、生徒は登場人物の性格やセリフを楽しんでいるため、機械的ではなく、内容を考えなが

ら繰り返すことができます。

3年Unit 6の合唱コンクールの場面では、登場人物の一人、絵里が手首をひねってしまい、誰と一緒にピアノを演奏するか相談しているところにハジンが自ら手を挙げます。ここで「一年前はどうかだったかな？」と問うと、生徒たちからは「2年Unit 8で演劇部の助っ人に誘われたときは、“I'm an athlete.”と一度は断っていた」と返ってきます。そこですかさず“He's changed lately. What happened to him?”と教科書本文の表現を使って投げかけ、クラス全体で登場人物の変化を考えます。こんなふうについての間にか、教科書に出てきた表現に触れることができているのです。そして、何度も触れたその表現を取り入れながら、生徒たちは少しずつ話す力を身につけていると感じています。

ラウンドシステムという、話す力が注目されますが、本校では実用英語検定の合格率も上がってきています。繰り返しているからこそ、何度も表現に触れることができるので、文法についても、生徒の気づきを大切にしながら確認する機会に自然と恵まれていることが一つの要因だと考えています。



### アウトプットには、大量のインプットが必要

本校に赴任してから1年がたったときに、小学校6年生の授業を担当するという話をいただ

きました。そのときに思い出したのは、「小学校の英語の授業では、言葉を呪文のように覚えてスピーチしたことがあった」という生徒の話です。話すことが児童の達成感につながりますが、それはまた無理なアウトプットにもなりうる危険性があることを感じました。小学生にこそ大量のインプットが必要ではないか——そんな思いから、小学校でラウンドシステムのカリキュラムを取り入れる試みが始まりました。

### ラウンドシステム in 小学校

小学校では、次のように、4ラウンドの授業展開としました。各ユニットは基本的に2時間ずつで進めました。

ラウンド 1	リスニングによる内容理解
ラウンド 2	リスニング 物語に関する絵カードを選ぶ
ラウンド 3	シャドーイング
ラウンド 4	音と文字の一致とライティング

ラウンド1では、クラス全体で物語を聞いて概要を理解し、ラウンド2で、絵カードを使って(ICTを活用し、各自で活動)、物語の具体的な内容をつかみます。物語が大体わかってきたラウンド3では、登場人物になりきり、シャドーイングを行いました。ここまでのインプットが功を奏したのか、ほとんどの児童がタイミングよく発音することができます。クラスによっては、うまくできなかった部分があると「もう1回やりたい！」と児童が言うほど、熱心に取り組んでいました。最後のラウンド4では、ここまでに慣れ親しんできた表現の文章を読んだり書いたりする、発展的な活動に挑戦し



ました。登場人物のセリフをランダムに黒板に提示しましたが、私とALTが文章を黒板に貼っている最中から読み始める児童が増えていったように感じます。

このように教科書を繰り返し扱っていく中で、教員と児童間や児童どうしの会話の機会も必ず設けました。ラウンド3、4あたりから児童が話す内容が単語レベルから文章へと少しずつ変化していき、ラウンドシステムの効果を感じています。

### 小・中のつながり(学びのつながり)

小学校の先生方と話していると、児童の「伝えたい思い」を軸に、授業を構成されている方が多いように感じます。そのような授業で英語に触れる際は、必ず目的・場面・状況が設定されています。だからこそ、わからないところがあっても、児童には聞こうとする姿勢が少しずつ育っていきます。楽しみながら、無意識のうちにたくさんの英語に触れて育ってきた児童だからこそ、中学校でも英語を使いながら、身につけていくことができると考えています。小学校英語が大きな改革を迎えた今、受け入れる中学校が、いかに小学校での学びをつなげていくかが、とても大切だと思います。ラウンドシステムはその小・中のつながりも意識されたカリキュラムであると感じています。